

びわこ文化公園植物だより〔β 版〕

ヤシャブシ カバノキ科

学名: *Alnus firma*

・公園内に植栽

春本番のぽかぽか陽気の中、公園内でも沢山の花が咲きだしたため、さて今回の植物はどうしようか…と思いながら歩いていると、足元に大量に落ちているもしゃもしゃした物体に毛虫かとビックリ！よく見ると植物の一部のようです。



調べてみると、ヤシャブシであることが分かりました。ヤシャブシは本州(福島から紀伊半島)の太平洋側、四国、九州に分布する落葉小高木です。花期は 3~4月で雄花序は尾のような形をしており、雌花序は雄花の株に1~2個直立します。また、雄花序と雌花序が同じ木につき、葉の展開より先に花が開花します。ヤシャブシは、ハンノキ属の中でヤシャブシ亜属に分類され、ヤシャブシ亜属は同じ属であるハンノキ亜属と比べて雌花に芽鱗(芽を守るうろこ状の皮)を持つ、雄花が枝先に一つずつ付くといった特徴があります。

名前の由来としては二つの言葉を合わせた名前のようにです。「ヤシャ」の部分は実がデコボコで鬼のようであるからといわれています。「ブシ」の部分は、もともと黒の染料に使われる白膠木の虫こぶのことをこのように呼びます。ヤシャブシの果実も代用品として使われたため、この言葉が使われるようになったそうです。余談ですが、ヤシャブシを利用した染物として、かの有名な水戸黄門が愛した水戸黒があります。藍とヤシャブシを用いて青みがかった黒に仕上げられるそうです。



↑ヤシャブシの実

ヤシャブシは、カバノキ科の特徴として、マメ科の菌とは異なる放線菌(糸状に生育するバクテリア)のフランキア属が根に共生しています。この共生関係により、放線菌から成長に必要な窒素が得られるため、植物の成長に必要な窒素の乏しい環境でも生育できます。また、根や根粒から浸出や落葉により、周辺土壤に窒素養分を供給し、森林を育てる効果もあります。

このような特性を生かし、植林に使用された樹木でもあります。滋賀県の愛荘町の秦川山では、その昔、薪の取りすぎで山が荒廃し、山から流れ出た砂礫による川底の上昇により、大雨のたびに川の氾濫が起こっていたといえます。その問題を解決するために、近隣に住む西川作平さんという方が秦川山に植林を行ったそうです。その時用いられたのが、ヤシャブシに近い種であるヒメヤシャブシでした。ヒメヤシャブシは荒廃した山地にしっかりと根付き、明治 36 年までに 72 万本もの植林が行われたといえます。その後、ヒメヤシャブシによる山地緑化の方法は県内にも広まり、文化公園近くの田上山でも行われたといえます。

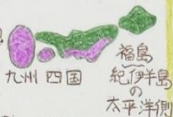
このような頼もしい樹木であるヤシャブシですが、一つ人間にとって困った性質を持っています。それは、花粉症の原因となるという事です。ヤシャブシも属するカバノキ科は花粉を飛散させるため、アレルギー反応が起こる場合が多くなっているようです。また、カバノキ科花粉のアレルギーを持っている人は、カバノキ科の花粉と果物(リンゴ、モモなど)のアレルゲンが似ているという理由より、果物を食べると口の中がかゆ

ヤシブシ

カバノキ科
ハンノキ属

本
産
一
日

・生息地



- ・高さ 8~15m
- ・幹の直径 10~30cm
- ・日本固有種
- ・丘陵地から山地の尾根に生息

ハンノキ属

ツルブ

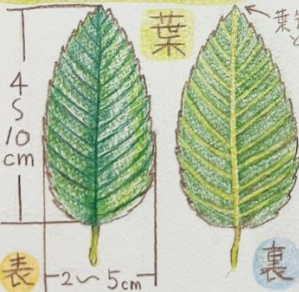
花手に手鱗
(手とまる鱗状の器官)が無い

花手に手鱗がある

ウツコ

- ハンノキ亜属
- ・ヤマハンノキ
 - ・ハンノキ
 - ・サクラバ/ハンノキ

- ヤシブシ亜属
- ・ヤシブシ
 - ・ヒメヤシブシ
 - ・オオヤシブシ




実
名前の「ヤシブシ」はこの実が「ヤシブシ」の鬼と似ているといわれたため

すごい特徴

根に「ランキア」という植物の成長に必要な窒素を供給してくれる根粒菌がいるため、やせた土地でも元気に育つ

くなるなどの症状が出る、口腔アレルギー症候群になることもあるといえます。しかし、果実に含まれるアレルゲンは熱に弱いため、加熱すれば口腔アレルギー症候群を起こしにくくなるといえます。いずれにせよ、花粉が飛ぶ時期に花粉症の人で口の中に違和感がある人は、無理をせずお医者さんに相談してくださいね。

 ヤシャブシは[ここ](#)で見ることができます。(Googleマップにリンク。10m程度の誤差が出ることがあります)

(龍谷大学 先端理工学部環境生態工学課程
栞原萌葉)

(参考サイト・文献)

宮道慎二 (2012) 不思議な微生物、放線菌, 生物工学基礎講座, 1, 32-36

https://www.sbj.or.jp/wp-content/uploads/file/sbj/9001/9001_yomoyama-2.pdf

滋賀県 琵琶湖環境部 森林政策課(2022), 『滋賀の林業・森林文化』

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5310492.pdf>

大久保公裕, 『口腔アレルギー症候群 (OAS)』 (最終閲覧日: 2023/03/25)

<https://www.kyowakirin.co.jp/kahun/about/oas.html>

愛荘町 (2020), 『愛ひきゃく便 治山のパイオニア 西川作平さんと姫夜叉五倍子』

(最終観覧日: 2023/3/25)

<https://www.town.aisho.shiga.jp/material/files/group/4/202007-04-05.pdf>

九町健一 (2013), 共生窒素固定放線菌フランキア, 生物工学, 91, 1, 24-27

https://www.sbj.or.jp/wp-content/uploads/file/sbj/9101/9101_index.pdf

竹本幸之介, 『アクチノリザル共生に関わる環状ジアリールヘプタノイドの生合成遺伝子の特定』(最終観覧日: 2023/03/25)

<https://www.woodmuseum.jp/phoenix/report/R3/takemoto.pdf>

水戸商工会議所, 特産品・地場産品 (最終観覧日: 2023/03/25)

https://mito.inetcci.or.jp/110iitoko/tokusan/takara_br8wwwu6.html

水戸市, 『水戸黒』, 2022(最終観覧日: 2023/03/25)

<https://www.city.mito.lg.jp/site/kankouinfo/3934.html>

小笠原 寛(2001)オオバヤシャブシ花粉症に合併する口腔アレルギー症候群:疫学調査ならびに花粉抗原との関係, 13, 2, 165-171

https://www.jstage.jst.go.jp/article/stomatopharyngology1989/13/2/13_2_165/pdf

平井信二『木の大本科 解説編』, 朝倉書店, 1996, 115~116

濱野周泰『原寸図鑑 葉っぱでおぼえる樹木2』, 柏書房, 2007, 52-54